

日本物理学会 2017 年春季大会

領域 10 インフォーマルミーティング 議事録

日時：2017 年 3 月 19 日（日）12:30～13:00

会場：大阪大学 豊中キャンパス C44 会場

議題

1. 領域 10 運営会議（2016/12/2）報告

- シンポジウム講演については、どのような講演者がどのような講演を行うかの情報が必要。プログラム小委員会で領域代表に説明が求められるため。
- 講演者の所属については、大学名以下の部分も明らかにする必要がある（具体的には、講演者の所属に重複がないことを確認できるところまで）。
- 学生奨励賞については後の議題で。
- 平成 29 年度の運営体制は後の議題で。
- 誘電体分科で 1 件、シンポジウム講演を検討中。
- 領域 10 ウェブページのリニューアルに関する報告。

2. 学生奨励賞について

学生奨励賞の在り方に関する問題提起の説明

- 領域によって表彰の基準が異なる。
- 理事会のオーソライズを経ていない。
- 領域の固定化が懸念される。

領域 10 における現在の審査方法の説明

- 領域 10 において累計 3 回以上（ポスター発表を含む）発表を行った学生が対象
- 審査方法は、講演申し込み時に申請する、申請時は口頭発表の登壇者である、審査は座長が「優・良・可・非該当」で評価し、その結果に基づいて領域運営委員が最終判断を行う。

学会執行部の提案

- 名称を日本物理学会学生優秀発表賞（Excellent Student Presentation Award of the Physical Society of Japan）に統一。
- 審査手順は若手奨励賞に準じる。すなわち、審査要綱と審査員名簿を学会に提出して理事会の承認を得る、受賞者決定後は審査の経緯と結論を文書で理事会に報告、理事会で審議し受賞者を確定。
- 対象者は各領域の募集要項による。
- 複数受賞が可能。

- 2018年春の年次大会より実施予定。

領域10運営会議(2016/12/2)での意見の紹介

- 審査員名簿を提出するとのことだが、現行ルールの座長を審査員とすることは認められるのか。
- 受賞者が決まってもオーソライズされるのは5月の理事会のため、学生は卒業してしまう。以前の所属研究室経由で賞状を送るしかない。
- 領域独自の賞の授与から、物理学会のお墨付きを与えることになるので歓迎すべき。
- 領域活性化のために、3回講演というルールを設けた。制度が新しくなるなら既存のルールに縛られる必要はないが、3回ルールは良いルールだと思う。
- 現行の制度では、審査対象講演を運営委員が発見する必要がある。見逃す可能性があるシステムは如何なものか。
- 講演申込時のWEBにチェックボックスを設けるアイデアは、学生優秀発表賞制定による再編にもなって流れた。

以上を踏まえた上での学生奨励賞に関する意見

- 優秀発表賞という名称は、現在の奨励賞の主旨と合わないように感じられる。
- 誘電体分科は口頭発表を2回以上としている。
- 運用上の問題として、過去のアブストラクトの重複を誰がチェックするのか？
- 化学会では、奨励賞対象であることをプログラムに明記し、発表時間を長く、英語発表にしている。また審査過程を残している。
- 発表開始時に審査対象であることをアナウンスする。
- 発表回数(累計3回以上)については領域内で閉じている。
- 表彰を受けるため、領域を変える学生がいるかもしれない。
- 今は領域内での意見を持って行く段階で、決定は理事会で行われる。受賞者の上限についても決まった話ではない。
- 受賞者数の上限についてはこれまで通り定めない方がよい。
- もともと各領域で勝手にやると言われたのでそうしていたのに、今頃になって問題にするのか？
- 現状制度を維持したい。
- 3回講演というルールから、表彰の乱発にはならない。
- 受賞者の上限を決めると落とさないといけないため、上限の規定はいらない。
- 理事会での審議が必要のため、上限はあってもないようなものと考えられるので、特に要綱に記載する必要はないのでは。
- 審査員は、講演内容を理解している必要があるため、座長とするのがよい。
- 受賞者数の上限や算出根拠を事前報告するのは難しいため、事後報告に改めて頂きたい。
- 算出根拠に1回目の発表者を加えてはどうか？

- 若手奨励賞に準じた名称にしてはどうか？
- 3/27 までに意見をまとめて提出するよう求められている。
- 以上の意見をまとめて領域メーリングリストで諮る。

3. 次期代表・副代表・運営委員について

2017 年度正副代表の確認が行われた

- 代表：吉矢正人先生（阪大工）。
- 副代表：西谷滋人先生（関西学院大）。

2017 年後期の運営委員として、以下の 5 名が推薦され、承認された

- 誘電体：佐藤幸生先生（九大工）。
- 格子欠陥：松中大介先生（信州大工）。
- X 線・粒子線（電子）：桑原真人（名古屋大）（任期は 2017 年前期から 2.5 年）
- X 線・粒子線（中性子・ミュオン）：伊藤孝先生（JAEA 先端研）（任期は 2018 年後期から 2.5 年）
- フォノン：筒井智嗣先生（JASRI）。

2017 年度の連絡委員の確認が行われた

- 前期：垂水（フォノン）、後期：松田（フォノン）

4. その他

- 素粒子分野は概要原稿（アブストラクト）の提出率が低い。
- 会場毎に概要原稿（アブストラクト）を置いて欲しい。

以上

進行：領域 10 連絡委員 鈴木宏輔（群馬大学）

書記：次期領域 10 連絡委員 垂水竜一（大阪大学）